

# 第11期 MOT (技術マネジメント) 研究会

## 開催のご案内

# テーマ：イノベーションと研究開発マネジメント

[2019年 大阪開催]

- ◆会 期 : 2019年7月22日(月)~11月25日(月) ※全5回
- ◆会 場 : 大阪科学技術センタービル会議室  
(大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◆講 師 : (講義および各回のコーディネーター)  
神戸大学大学院経営学研究科教授  
原 田 勉 氏
- ◆特別講義 : 一般社団法人 Japan Innovation Network 常務理事  
松 本 毅 氏
- ◆実践事例 : オムロン、シスメックス、クボタ
- ◆特別視察 : シスメックス テクパーク (神戸市)
- ◆対 象 : 研究・開発部門、技術部門の管理者・リーダーの方々  
企業内でMOTの推進・教育に携わるの方々 など  
(定員 30 名)

### 開催にあたって

グローバル競争の激化や国内市場の縮小化など、企業を取り巻く事業環境は変化しております。そのため、各企業においては自社製品・技術の優位性がゆらいでおり、新たな価値やイノベーションの創出が求められております。

そして、このイノベーションをいかに生み出すかを考えるのがMOTの主要テーマであり、本研究会ではその推進のための技術マネジメントのしくみ、新たな組織能力の高め方、研究開発活動のプロセスなどについて考えます。指導講師のコーディネートのもと、他社事例の発表とディスカッションをもとに、実践から得られるヒントを学んでいくカリキュラムとなっております。

今年のテーマは「イノベーションと研究開発マネジメント」です。自社で蓄積された技術も活用しながら、外部との柔軟な連携・提携によりイノベーションを推進し、既存の事業領域にとらわれない新しい価値を社会に提供できる組織であることが、時代を超えて勝ち残る企業の条件と言えるのではないのでしょうか。

この機会に、関係各位の積極的なご派遣(ご参加)をおすすめ申し上げます。

主 催



一般社団法人 日本経営協会

## 指導講師

神戸大学大学院経営学研究科 教授  
Ph.D.(スタンフォード大学) 博士

### 原田 勉 氏



〔略歴〕 1989年一橋大学商学部卒業  
1991年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了  
1997年スタンフォード大学よりPh.D. (経済学博士) 取得  
1997年神戸大学経営学部助教授  
1998年科学技術政策研究所客員研究官(～99年)  
2003年INSEAD 客員研究員(～04年)  
2004年ハーバード大学フルブライト研究員(～05年)  
2005年神戸大学大学院経営学研究科教授

〔専攻〕 経営戦略・組織・技術マネジメント、産業組織・経済成長論

〔著書〕 Economics of an Innovation System, Routledge, 2019年  
『OODA LOOP (ウーダグループ)』 東洋経済新報社 2019年  
『イノベーションを巻き起こす「ダイナミック組織」戦略』日本実業出版社 2016年  
『イノベーション戦略の論理』中央公論新社 2014年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』 東洋経済新報社 2010年  
『汎用・専用技術の経済分析』 白桃書房 2007年  
『ケース演習でわかる 技術マネジメント』 日本経済新聞出版社 2007年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価編]』 東洋経済新報社2007年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』 東洋経済新報社2006年  
『MBA 戦略立案トレーニング』 東洋経済新報社2003年  
『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』東洋経済新報社 2000年  
『知識転換の経営学』,東洋経済新報社 1999年 他

### <指導講師からのメッセージ>

MOT(技術マネジメント・技術経営)について講演や研修を依頼される場合、よくあるリクエストは、他社での具体的な事例を数多く盛り込んで欲しいというものです。教科書のなかの話ではなく、現実にもどのような技術マネジメント、技術経営が実践されているのかは、多くの企業の方々にとって強い関心事であると同時に、その情報はきわめて限定されているのが実状です。というも、このような MOT に関する事項はトップシークレットとしてあつかわれることが多いからです。

この MOT 研究会では、このような要望をもつ企業の方々に対して、日本を代表する優良企業で技術マネジメントを実践されている現場の方々を講師としてお迎えし、自社の事例について詳しくお話していただきます。そして、そこで問題提起された事項について自由に討議していきます。MOT に関心をもっているけれども、まずは先端的な企業ではどのようにそれが実践されているのか知りたい、自社で MOT を導入しているけれども、どのようにすれば成果が上がるのかヒントを得たい、といった要望をお持ちの方々には是非ともご参加いただき、共に研究していきたくと思います。

## 研究会のすすめ方・特長

- 1 多彩なゲストスピーカーの講話や視察を通し、技術マネジメントのあり方と実践について多面的に学びます。また、各回とも指導講師のコーディネートのもと、質疑応答や討議・意見交流を深めます。
- 2 懇親交流会(2回)を通し、参加者同士の交流と親睦をはかります。
- 3 全会合終了後は、すべてのドキュメントを1冊にまとめ、報告書として進呈いたします。



日時・会場	テーマと内容	当日のスケジュール(予定)
<b>第 1 回</b> 7月22日(月) 13:30~18:30 <b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル	<b>基調講義：「OODAループとイノベーション・マネジメント」</b> 講 師：神戸大学大学院経営学研究科 教授 <b>原田 勉 氏</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             PDCAサイクルに代わり得る考え方として、OODAループが注目を浴びています。このOODAループはもともと米軍で採用され、湾岸戦争等で顕著な効果を上げたものです。近年では米国の優良企業でも採用するところが増えてきています。この講義では、このOODAループとはどのようなものなのかを解説したうえで、イノベーション・マネジメントにどのように適用できるのかについて考察していきたいと思ひます。           </div>	13:30 開会 13:35 講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※指導講師、参加者の間で 討議と意見交流 17:00~18:30
<b>&lt;懇親交流会&gt; 同ビル内で実施予定</b>		
<b>第 2 回</b> 8月19日(月) 13:30~17:00 <b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル	<b>「イノベーションをデザインする」            ~Willを持った人材、組織が未来を創る~</b> ゲスト：オムロン株式会社 経営基幹職 イノベーション推進本部 SDTM推進室長 <b>竹林 一 氏</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             “共創の時代”に向けてオープン・イノベーションの本質、IoTに代表されるセンシング、通信、クラウド、AI、ビックデータと言った技術を理解した上で、それらをいかに使いこなし、賛同者を巻き込み、共に新しい市場を創りだすのか“Will”と“共創力”を持った人材、組織が求められてきます。新規事業立ち上げ、新会社の設立、そして今注目されている“センシングデータ流通取引市場”という市場自体を創造するプロジェクトを実例に“イノベーション”の仕組みや、イノベーションを生み出す人材、組織について共に考察します。           </div>	13:30 開会 13:35 竹林氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流 17:00 終了
<b>第 3 回</b> 9月27日(金) 13:30~16:30 <b>会場</b> 特別視察 シスメックス(株) テクノパーク (神戸市)	<b>「知の創造と継承を実現する            グローバル基準の研究開発マネジメント」</b> ゲスト：シスメックス株式会社 執行役員 中央研究所長 兼 MR事業推進室長 <b>吉田 智一 氏</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             シスメックスでは、血液や体液中に存在する細胞、遺伝子、タンパクなどの成分を分析する検査方法(リキッドバイオプシー)の確立に向け、多くのアカデミア、医療機関、製薬など研究開発型企業の皆さんとオープンイノベーションを通じて研究開発を進めています。本講演では、これらの研究開発について実例を交えてご紹介いただくと共に、グローバル基準の研究開発を実現する研究開発体制や取組みについてお話させていただきます。           </div>	13:30 開会 13:40 吉田氏ご講話 14:50 小休憩 15:00 パーク見学 15:50 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、 参加者の間で意見交流 16:30 終了
<b>第 4 回</b> 10月4日(金) 13:30~17:00 <b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル	<b>特別講義：「オープン・イノベーションで切り拓く新たな事業創造」            ~成功の鍵は戦略的提携と4段階のValueをつなぐ事~</b> ゲスト：一般社団法人 Japan Innovation Network 常務理事 <b>松本 毅 氏</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             今、求められるのは「戦略的提携を実践し成果を出せるオープン・イノベーションの仕組み構築と推進リーダーの役割」です。顧客・市場ニーズの発見力を磨き事業戦略に落とし込める戦略タイプの人材が求められます。戦略を実行する際に内部に拘らずダイナミックな外部活用、オープン・イノベーションの実践が重要です。既存事業の深耕と拡大だけでなく、新たな事業への拡大が求められる中で、What To Do (なにをすべきか (=WHAT) を発想する) とHow To Do (どのように (=HOW) 達成すればいいのか) の2つのオープン・イノベーションを解説いただきます。また、オープン・イノベーション成功の鍵(4段階のValueをつなぐ)と最近の新潮流として6つのホットトピックをご紹介します。           </div>	13:30 開会 13:35 松本氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流 17:00 終了
<b>第 5 回</b> 11月25日(月) 13:30~18:30 <b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル	<b>「『スマート農業』実現へ向けた            クボタの取り組みと研究開発体制」</b> ゲスト：株式会社クボタ 取締役専務執行役員 研究開発本部長 <b>佐々木 真治 氏</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             近年、日本農業においては、農家の高齢化(平均年齢67歳/2015年)が進み農家戸数の減少と共に、年々経営規模を拡大する担い手農家が増加しています。クボタは、2014年6月に将来の日本農業を支える担い手が目指す、データ活用による精密農業(スマート農業)を支える営農支援システムと連携する精密コンバインを発売したのを皮切りに、担い手農家支援を強化してきました。このたびは、スマート農業を支える同社の今後の方向を含めた取り組みと開発体制をご紹介します。           </div>	13:30 開会 13:35 佐々木氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流 17:00~18:30
<b>&lt;懇親交流会&gt; 同ビル内で実施予定</b>		

※ 上記の時間帯については、当日の進行状況により、多少変更させていただきます。また、各回の討議の進行については、当日の状況にあわせて指導講師がコーディネートします。

※ 諸事情により、日程・講師・内容等に変更が生じる場合がございます。

◆企画委員 (50音順) 本研究会の発足にあたり、主旨へのご賛同や企画へのご協力をいただいた方々

- 岩見 豊史氏 グローリー株式会社 海外カンパニー開発統括オフィス プロダクトマネージャー  
河原 克己氏 ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長
- 請川 信氏 パナソニック株式会社 人材開発カンパニー 技術研修課 課長  
仲野 慶則氏 武田薬品工業株式会社 グローバルワクチンビジネスユニット 日本ビジネスプロセス&オペレーション部 ビジネスオペレーションリード
- 小畑 智宏氏 日立造船株式会社 事業企画・技術開発本部 業務部長  
濱田 哲郎氏 株式会社ノーツ 研究開発本部 海外商品統括部 グローバル商品開発2部 部長
- 金子 靖仙氏 ミズノ株式会社 研究開発部 部長  
森岡 裕子氏 大日本住友製菓株式会社 技術統括部長

◆実施要領・申込要領

- ◇会 期：2019年7月22日(月)～11月25日(月) (全5回)
- ◇会 場：大阪科学技術センタービル会議室 (大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◇主 催：一般社団法人 日本経営協会
- ◇受講登録：1社につき2名様までのお申込が可能です。 ※登録者以外の方の代理出席も可能です。
- ◇定 員：30名
- ◇参加料：(1社あたり) ※2019年10月1日からの消費税引き上げを前提としております。

	1名登録の場合			2名登録の場合		
	参加料	消費税	合計	参加料	消費税	合計
本会会員	92,000円	(8%対象分) 4,416円 (10%対象分) 3,680円	100,096円	145,000円	(8%対象分) 6,960円 (10%対象分) 5,800円	157,760円
一 般	115,000円	(8%対象分) 5,520円 (10%対象分) 4,600円	125,120円	165,000円	(8%対象分) 7,920円 (10%対象分) 6,600円	179,520円

- ◇申込方法：下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、下記事務局までFAXまたは郵送でお申込みください。折り返し参加券を送付いたします。
- ◇申込締切日：2019年7月12日(金)
- ◇お支払方法：お申込到着後、本会から請求書と振り込み用紙を送付いたしますので、開講日までに請求書に記載の指定口座にお振り込みください。  
\*振込み手数料は貴社にてご負担ください。  
\*領収書の発行は省略し、「銀行振込金受領書」をもって代えさせていただきます。
- ◇その他：お振込みいただいた参加料は原則として返金いたしかねますので、ご都合が悪くなられた場合は代わりの方のご登録をお願いいたします。

◆お申込・お問合せ先

一般社団法人 日本経営協会 関西本部「MOT研究会」事務局 (担当：田中)  
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル5階  
TEL：06-6443-6962 FAX：06-6441-4319 E-Mail：ksosaka@noma.or.jp

031A-1907(4)

NOMA「第11期 MOT研究会」参加申込書

2019年 月 日

(一社)日本経営協会会員  一般

- (1) 会社(団体)名： \_\_\_\_\_
- (2) 住 所：〒 \_\_\_\_\_ TEL ( ) - \_\_\_\_\_
- (3) 連絡担当者氏名： \_\_\_\_\_ 所属役職名 \_\_\_\_\_ FAX ( ) - \_\_\_\_\_  
(請求書送付)

◆登録者

氏 名 (フリガナ)	所属・役職名	勤務先住所	連絡先 (TEL・E-mail)
フリガナ		〒	
フリガナ		〒	

参加申込書にご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。  
①参加券や請求書の発送などの事務処理 ②セミナー・イベントなど本会事業のご案内  
なお、②がご不要の場合は□にチェックしてください。 □ 不要

本コースは、運営において参加者各位の氏名、勤務先名、所属、役職名を記載した参加者名簿を本講座の参加者全員に配布することが必要ですので、このことを同意のうえお申し込みください。